

資料 3

校歌制作の方向性について

歌 詞

【歌詞は一定の型が存在】

- ◆ 学校名
- ◆ 学校の所在地周辺の自然、地理、風土、地名
- ◆ 学校の標語、校訓、教育目標、教育理念、校風
- ◆ 所在地の歴史
- ◆ 未来へのモットー、スローガン

小川町立八和田小学校校歌

千野 幸三郎 作詞
渡辺 茂 作曲

一 のぼる朝日に夕映えに
光あふれる丘の上
高きをしたい辿り行く
学びの道の楽しさよ
まどには秩父の山青い

小川小学校校歌

服部 躬治 作詞
多 久毎 作曲

一 高くそびえて 動きなき
その笠山は 我が心
遠く流れて 絶えせざる
かの槻川は 我が思い

竹沢小学校校歌

小鷹 直治 作詞・作曲

一 朝だ 明るい光をあびて
きょうも学ぶよ 元気なひとみ
望みにあふれて ひびくよりズム
ささ舟うかぶ原川べりに

【参考】 町内学校校歌

二 みどり色濃き森かげの
泉集めてゆく川に
岩をもつがつかみて
学びのわざのたゆみなき

二 動かぬ心 ひたすらに

徳のみ空を 仰ぎつつ
絶えせぬ思い ひとすじに
知識の海に そそがまし

二 笠原 鞆負 緑の木部や

木呂子のおくから 勝呂の森と
かがやく郷土のほこりを 胸に
小鳥の歌も ほがらかに

鏡は清き市野川

三 教えの親は いつくしみ

三 金勝のみね 青雲高く

三 雪にもめげず嵐にも

香るときわの大楠を

希望にもえるこの園の

学びの友とはげもつよ

負けるな元気な大楠に

学びの子らは なれ睦び
朝な夕なに 春秋に
ただこの心 この思い

意気たくましく ならんで立てと
光の中の その道に
ああ わが竹沢小学校

【参考】町内学校校歌

大河小学校校歌

作詞 江原輝二
補作 神沼新十郎
作曲 荒井敬正

一、もえるみどりの 笠山を

あおぐびとみも うつくしく
ちからあわせて 学びあう
夢よ大きく 雲にのれ
あゝわれらの 大河小学校

みどりが丘小学校校歌

作詞 宮沢 章二
作曲 土肥 泰

一、かおる小川の みどりが丘に

朝日を浴びて 育つ日よ
すすんで学び すすんで鍛え
心と力 合わせて みんな
呼び合う友たち 花のうた

東中学校校歌

作詞 千野幸三郎
補筆 杉田一夫
作曲 中田喜直

一、あした真澄の空高く

秩父の嶺を仰ぎつつ
たどるも楽し平松の
古代文化の遺跡ふみ
真理の光身につけて
いざわれら究めんより深く

二、谷のいずみを 瀬にあつめ

清く流れる 槻川に
ちえのうたごえ ひびかせて
友よ仲よく 手をつなごう
あゝわれらの 大河小学校

二、山は明るく 比企から秩父

豊かな風に 芽ぐむ夢
若草あふれ やさしさあふれ
かがやく命 伸びゆく知恵よ
楽しい まなびや 鳥のこえ

二、夕べかがよいいく雲の

思い果てなきこの庭に
友と誓いていそしめば
若き心の天かくる
次代を背負うこのからだ
いざわれら鍛えんより強く

三、教えゆたかな この庭に

田んぼのひまぐ 若草は
つよへあかるく おおらかに
呼ぶよ希望の 青い空
あゝわれらの 大河小学校

三、ひとりひとりが みどりが丘に

未来をだいて 実る日よ
笑顔が光る 希望が光る
けやきが光る 行く手が光る
進もう 生きよう たくましく

三、日ごと日ごとに進み行く

郷土の誇り伝えんと
願いこめたる学び舎の
緑の園に栄えあれ
理想の海は遠くとも
いざわれら求めん美しく

【参考】 町内学校校歌

小川町立西中学校校歌

作詞 網島憲次
作曲 折山俊也

一 山々の精気町にあふれる
かくわしの地に建てる学舎
集う若人真理求めて
励む小川の西中学校

二 れいろの天地光綾なし
美しく立つ栄えの学舎
みがく若人腕きたえて
勇む小川の西中学校

三 人々のえい智ここに集まり
いくとせのもと築く学舎
学ぶ若人道を求めて
進む小川の西中学校

小川町立樺台中学校校歌

作詞 宮澤章二
作曲 岩河三郎

一 輝く風に 山なみ青く
光 求めて 自ら学ぶ
わが中学よ 樺台
知恵と 希望と 生きぬく力
日ごと新たに あふれ湧く

二 流れが告げる 小川の祈り
心 豊かに 思いやる愛
やさしさ薫る 樺台
ひとりひとりの 青春燃えて
躍る いのちに 照る若葉

三 喜び深く 未来を見つめ
体 鍛える たゆまぬ努力
永久の母校よ 樺台
師あり 友あり 三年の歌を
われら忘れず いつの日も

平成以降開校した町内学校の校歌

◆小川町立みどりが丘小学校 平成3年4月開校

作詞：宮沢章二 作曲：土肥 泰

開校後、作詞家 宮沢氏が来校見学後、作詞制作に入る
開校後の平成3年11月制定

◆小川町立上野台中学校 平成5年4月開校

作詞：宮沢章二 作曲：

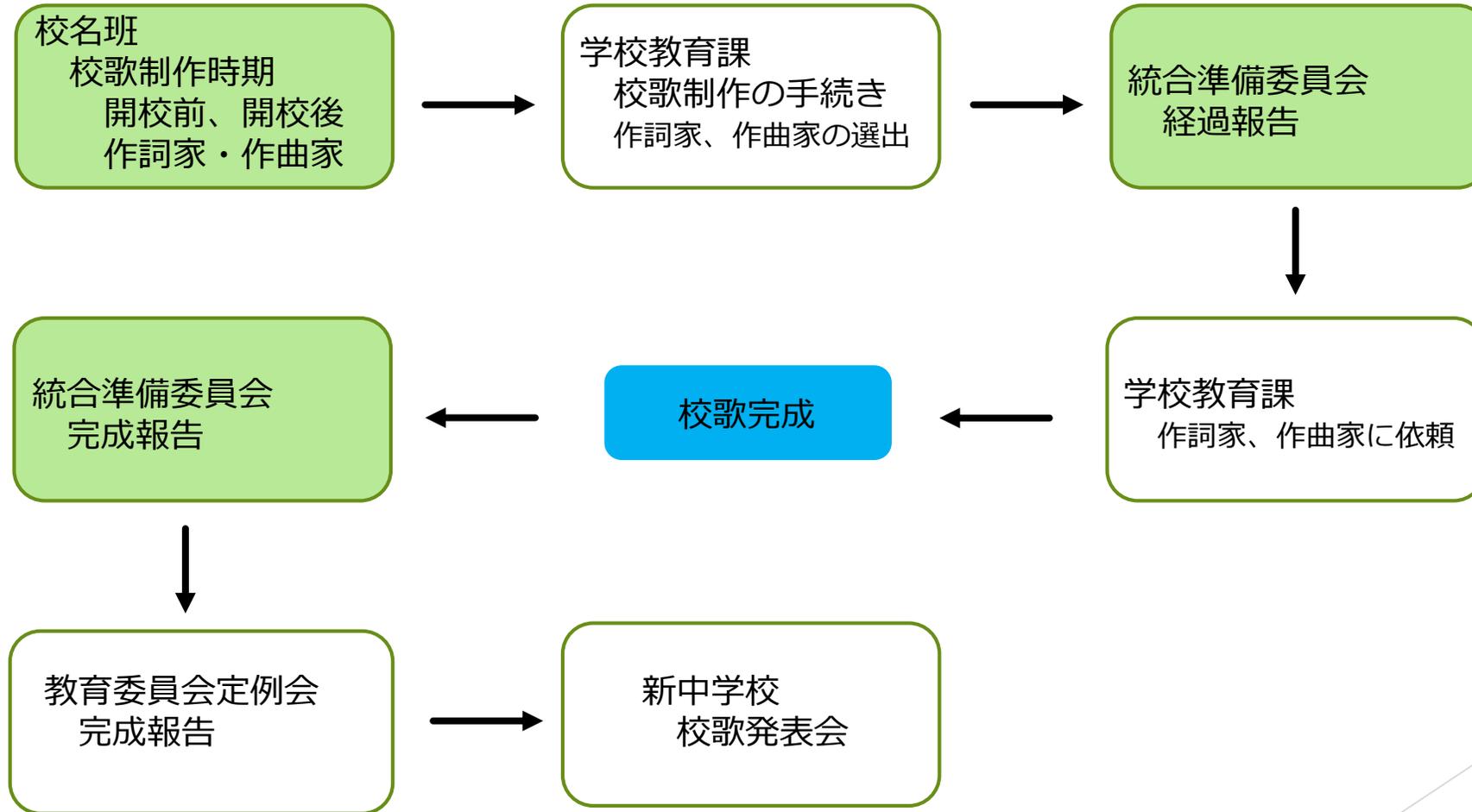
開校後、作詞家 宮沢氏が来校見学後、作詞制作に入る
開校後の平成5年11月制定

◆小川町立櫛台中学校 平成9年4月開校

作詞：宮沢章二 作曲：岩河三郎

開校後、作詞家 宮沢氏が来校見学後、作詞制作に入る
開校後の平成9年11月制定

【確認】校歌が最終決定されるまでの流れ



制作時期について（特徴と考え方）

デザインの制作を開校前に行うのか、開校後に行うのか

制作時期	メリット&デメリット	
開校前	メリット	開校式、始業式、入学式などで発表
	デメリット	学校をイメージした曲になりにくい
開校後	メリット	開校後の生徒の学校生活など具体的なイメージを持てる
		教育目標を歌詞に入れることができる
	デメリット	当面は始業式、入学式で発表できない

校歌の制作方法について

制作方法について

●作詞、作曲について

【制作のパターン】

パターン	A	B	C	D	E	F
作詞	音楽家	教職員	公募	教職員	公募	音楽家
作曲	音楽家	音楽家	音楽家	教職員	教職員	教職員
費用概算	100万	謝礼+50万	50万	謝礼	謝礼	50万+謝礼

※作曲は音楽家か教職員に絞る

※音楽家の費用は50万円として計算

※公募は謝礼なし

※教職員は謝礼

【協議】校歌の制作方法について

【協議事項 1】

校歌制作の時期

新中学校開校前（令和 7 年 4 月）完成

新中学校開校後（令和 7 年 4 月以降）完成

【協議事項 2】

（1）作詞家、作曲家の選定

※新中学校開校前に作詞、作曲を音楽家に製作依頼する場合

令和 6 年度補正予算の関係上、制作依頼は令和 6 年 6 月以降

（2）音楽家に依頼する場合の人選

※過去の依頼状況では、作詞家を選し、作詞家からの紹介により

作曲家に依頼